



JAPIC会長
進藤 孝生
Kosei SHINDO

JAPICについて

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(Japan Project-Industry Council: JAPIC)は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際協力の促進と産官学の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目指して活動して参りました。現在43業種約230社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。

講座開設趣旨

神戸大学とJAPICとの連携協定に基づき、本リレー講座を開設します。

世界は、新興国の急成長や情報通信技術の目覚ましい進歩、金融市場のボラティリティ化などにより、大交流・大競争時代にシフトしています(グローバル化)。その一方で未曾有のコロナ禍で世界は分断の危機に直面しています。

この時代を生き抜く学生には、「人・社会・国に尽くす、更には国際社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励むことを期待します。その為にはこの講義で説く『社会基礎学[グローバル化人材に不可欠な教養]』を習得することが必要不可欠と考えます。

本リレー講義では、グローバル人材に不可欠な教養とは何かを探求し、全学部生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力の向上をサポートします。

学生に期待すること

本リレー講義全体のキーワードである、「グローバル化とは何か?」、「グローバル化の中で日本は?」について理解し、大交流・大競争時代の事実認識についての強い関心と好奇心を持って、グローバル時代にチャレンジするための備えに取り掛かることを期待します。

主 催／神戸大学 産官学連携本部
一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)

サポート／神戸大学東京六甲クラブ

問い合わせ先／神戸大学研究推進部連携推進課 連携推進グループ

電話番号: 078-803-5427

Email: ksui-sangaku@office.kobe-u.ac.jp

JAPIC
連携

産業界・官界トップリーダーによる

連続リレー講座 2022

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?
学生は何を学び、何を身につけるべきか?

神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づき、産業界・官界のトップリーダーがオムニバス形式で講義します。
今、企業でどんな人材が求められているのか? 学生に何を身に付けてほしいのか?
土曜日を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。

科 目 名 社会基礎学〈グローバル人材に不可欠な教養〉

開講時期 令和4年度 第2クォーター 土曜日10:40▶16:40 全6回
(初日と最終日は13:20~16:40)

場 所 鶴甲第1キャンパス
K棟 K202号室 または B棟 B110号室
(シラバス及び履修登録時に掲示等でご確認ください)

科目区分 総合教養科目
2単位取得

世界に挑め!!



社会基礎学【2022年度】

※2単位取得(科目区分、卒業案件の取り扱いは、学年・学部によって異なります。)

第1回 6/18(土)

13:20-16:40

【導入講義】 連続リレー講義の意味・意義と狙い

PD・コーディネーター

JAPIC 常務理事
三浦 潔司

プロフィール：新日鐵(現 日本製鉄株式会社)に入社し、主に鋼材の営業を担当。分野は、建築・土木、造船、建設機械、産業機械、地域は、東京、大阪、名古屋とそれぞれ幅広く担当。2012年からの5年間は、新日鐵子会社にて、経営を担う。趣味は、ゴルフ、読書、散歩に芸術鑑賞を加えるべく、勉強中。

PD・パネリスト

双日株式会社 代表取締役社長
藤本 昌義

プロフィール：1958年福岡県生まれ、東京大学法学部卒業後、1981年日商岩井(現双日)入社。自動車畑を長く歩み、米国、ポーランド駐在を経て、ベネズエラに赴任しMMC Automotriz S.Aの社長に就任。その後、双日米国会社兼米州機械部門長、執行役員、常務、専務を経て、2017年6月から現職。趣味はゴルフ、座右の銘は「人事を尽くして天命を待つ」。

第2回 6/25(土)

10:40-12:10

現代の金融システム

金融は企業や個人が経済活動を行う上で不可欠な役割を果たしている。その一方で経済に悪影響を与えることもあり、悪者扱いされることも多い。講義では金融が個人の生活や企業活動にどう役立っているのかについて具体的にみた上で、どう活用していくことが望ましいかを考えてみたい。

ゴールドマン・サックス証券株式会社 取締役
共同チーフ・アドミニストレイティブ・オフィサー
吉村 隆

プロフィール：1985年日本銀行入行。IMF出向、ニューヨーク事務所次長、政策委員会企画役を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券株式会社コンプライアンス部門統括 マネージング・ディレクター。2021年現職に就任。趣味：旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘：天網恢恢疎にして漏らさず

第3回 7/2(土)

10:40-12:10

日本鉄鋼業の事業戦略と
カーボンニュートラルへの対応

昨今のコロナ禍のなかであっても世界の鉄鋼生産量は拡大の一途を続けており、鉄鋼業のグローバル競争が激化している。そうした中で、地球温暖化対策など地球環境に対する社会的要請の高まりを背景として、カーボンニュートラルに向けての産業界の潮流は急激に変化している。今後、日本の鉄鋼業がこうした国内外の情勢変化に柔軟に対応して将来に亘ってグローバル競争を勝ち抜くための課題と方策について考える。

日本製鉄株式会社
常務執行役員 大阪支社長
津加 宏

プロフィール：1986年、住友金属工業(現 日本製鉄)入社。人事労政部次長を経て、2012年和歌山製鉄所総務部長、14年大分製鉄所総務部長、16年間保会社部長、19年執行役員、21年4月より現職。本社・製鉄所を通じてキャリアの多くは人事・総務畑で、12年の新日本製鐵と住友金属工業の統合時は、新人事制度の策定にも携わり、座右の銘は「驚馬十駕(どしゅうかう)」。広島県出身。

13:20-14:50

東アジア大市場統合と日本

少子高齢化の影響で活力が低下していく日本は、経済成長が著しい東南アジアで「稼ぐ力」を高める必要がありますが、韓国などのライバル企業も市場の囲い込みに動いています。そうした競争を手助けするのが、「ソフトパワー」といわれる、国のブランド力です。Kポップや韓国ドラマなどの韓国のソフトパワーが東南アジア市場で韓国企業の競争力をサポートしている状況を解説し、日本はどう対抗すべきかを考えたいと思います。

読売新聞東京本社
アライアンス戦略本部総務
深沢 淳一

プロフィール：1987年読売新聞入社。経済部で経産省、財務省、外務省、内閣府、国文省、総務省などの主要官庁や民間企業を取材。シンガポール特派員(アジア経済担当)、アジア総局長(バンコク駐在)として、計6年半にわたって東南アジアの政治・経済情勢を取材。著書は、「不完全国家ハンマーの真実」(文真堂)、「ASEAN大市場統合と日本」(同、共著)。趣味は旅行。

13:20-14:50

北東アジア情勢と日本外交

日本をとりまく安全保障環境の中で、日米同盟、日本の安全保障政策、そして対中政策、対朝鮮半島政策をどう考えるか。

外務省
アジア大洋州局長
船越 健裕

プロフィール：外務省アジア大洋州局長。昭和63年外務省入省。在アメリカ合衆国日本国大使館、北米局日米安全保障条約課長、在韓国日本国大使館、国家安全保障局内閣審議官等を歴任。兵庫県出身。

パネルディスカッション

第1部 グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?
第2部 学生は何を学び、何を身につけるべきか?

PD・パネリスト

神戸大学 理事・副学長
河端 俊典

プロフィール：1958年愛媛県新居浜市出身。愛媛県と愛知県で育つ。三重大学農学部卒業・同大学院農学研究科修士課程修了。博士(工学)(神戸大学)。19年間の民間企業勤務を経て、2000年神戸大学農学部助教授。2012年農学研究科教授、2017年農学研究科長。2021年4月から理事(研究・社会共創・イノベーション担当)・副学長。趣味：長距離ドライブ、登山。(神戸大学山岳部長)

PD・パネリスト

株式会社ロイヤルホテル 代表取締役社長
蔭山 秀一

プロフィール：1956年大阪府生まれ。1979年に神戸大学経済学部卒業後、株式会社住友銀行(現株式会社三井住友銀行)に入行。一貫して関西の法人営業に携わり、2014年同行代表取締役副頭取、2015年取締役副会長に就任。2017年から株式会社ロイヤルホテルの社長となり現在に至る。日本ホテル協会副会長。元関西経済同友会代表幹事。趣味：ゴルフ。座右の銘：山より大きな猪は出ぬ。

15:10-16:40

グローバルブランドの
ローカライゼーション

1935年に誕生し、世界中で愛されているグローバルブランド「キットカット」。その「キットカット」を1973年から日本独自の方法で育ててきました。日本におけるキットカットの歴史を紐解き、時代時代でどのように成長させてきたのかを、製品、消費者コミュニケーションの観点から、「受験キャンペーン」、「期間限定品」から高級ラインの「ショコラトリ」に至るまでの具体例を挙げながらセッションを進めて行きます。

ネスレ日本株式会社 専務執行役員／
チーフ・マーケティング・オフィサー
石橋 昌文

プロフィール：1985年、神戸大学経済学部卒業後、ネスレ日本株式会社入社。営業本部、ネスレUKの勤務を経てネスレマキントッシュ社(現ネスレ日本コンフェクションリー事業部)に勤務。ネスレスイス本社での勤務を経て、2005年、マーケティング統括部長。2009年ネスレ日本株式会社 常務執行役員、2012年チーフ・マーケティング・オフィサー(CMO)に就任。2017年より同社、専務執行役員。★本学出身者

15:10-16:40

コロナ禍の都市で価値を増すパブリックスペース
—58 Public Spaces in Tokyo—

COVID-19によるパンデミックは、世界の都市でロックダウンや緊急事態宣言による様々な行動制限を生じさせた。様々な活動が制約される中、身近にある屋外のパブリックスペースで太陽の光や風を感じながら過ごす重要性が再認識された。これからの都市づくりに向けて、良質なパブリックスペースづくりが鍵になることは間違いない。高密度化した東京で、いかにして良質なパブリックスペースが生まれたのか、それを紐解くことが、これからの日本、世界での都市づくりに必要な示唆を与える。

株式会社日建設計 取締役常務執行役員
都市・社会基盤部門統括
奥森 清喜

プロフィール：1992年、日建設計に入社。以来、国内外の都市マスタープラン、都市開発プロジェクトを数多く経験。東京駅(グランルーフ)、渋谷駅、新宿駅、品川駅などに代表される駅まち一体型開発(Transit Oriented Development：TOD)に携わり、中国、ロシアなど多くの海外TODプロジェクトを担当。

第4回 7/9(土)

10:40-12:10

アントレプレナーシップに
ついて考える

近年はベンチャー企業への就職なども増加し、ベンチャーというキャリアも一般化している。日本経済発展の観点からも、社会からのベンチャー企業への期待が高まっている。この講義ではベンチャー企業を創業した当事者が、その創業、成長のストーリーを中心に、アントレプレナーシップ(起業家精神)について講義する。アントレプレナーシップは起業することだけにあらず、今後社会で活躍するために必須の精神である。

株式会社ベイフォワード
代表取締役
谷井 等

プロフィール：1996年神戸大学経営学部卒。1996年日本電信電話株式会社入社。1997年から会社経営に身を置き、1社を楽天株式会社に、1社を上場の上、ヤフー株式会社に売却。会社の設立から買収、売却、海外企業との業務提携、株式上場、TOBなど、ほぼ全てのコーポレートアクションを経験。2016年株式会社ベイフォワードを設立。2017年よりセリタイア2年間海外を放浪。★本学出身者

10:40-12:10

モビリティ革命と
MaaS(マース)

モビリティ革命の本命といわれる「MaaS: Mobility as a Service(マース)」」。様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の交通サービスがMaaSです。本講義では、移動革命の最新動向やMaaSが私たちの都市やライフスタイルにどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

一般財団法人計量計画研究所
理事 兼 研究本部企画戦略部長
牧村 和彦

プロフィール：1990年一般財団法人計量計画研究所(IBS)入所。東京大学 博士(工学)。愛知県出身。都市・交通のシンクタンクに従事。将来のモビリティビジョンを描くモビリティ・デザイナー、代表的な著書に、「MaaSが都市を変える～移動×都市DXの最新線、学芸出版」、「MaaS(日経BP)」,「Beyond MaaS～日本から始まる新モビリティ革命(日経BP、共著)」等多数。

第6回 7/30(土)

13:20-14:50

総 括

JAPIC 専務理事
丸川 裕之

プロフィール：1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵(現 日本製鉄株式会社)入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や財界・官界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講義を主管。趣味は全国の建築物(主として学校)巡り、東西の美術館鑑賞、読書(日本の古典、国内外の探偵・推理小説)。

15:10-16:40

試 験

13:20-14:50

日本経済が向き合う
リスクと変革の可能性

日本経済はさまざまなリスクを抱えている。脱炭素、経済安全保障は企業の戦略を大きく変化させ、多くの経営者は緊張感をもって次の一手を検討している。新型コロナウイルスは物流の混乱と資源価格の上昇をもたらし、世界的な金融緩和は転換点を迎えた。日本では財政政策も政治の対立軸になってきた。中長期的なリスクへの対応策と、そこから生まれるゲームチェンジの可能性を探る。デジタル化が進むメディアの将来像にも触れたい。

一般社団法人共同通信社
論説副委員長
永井 利治

プロフィール：一橋大社会学部卒。1986年毎日新聞社、88年に共同通信社に入社。経済部の記者として日米貿易摩擦、金融危機、銀行再編、財政・金融政策などを取材。1995年から98年まではワシントン支局。経済部長、特別報道室長、編集局次長を経て2021年11月から現職。東京五輪・パラリンピックの取材、報道にも準備段階から5年余り携わった。千葉県出身。

13:20-14:50

神戸大学生の就職意識と、
ベンチャー起業家に就いて

大企業においても、終身雇用が維持できなくなってきました。副業を認める企業も増えてきました。神戸大学で学んだ学生は、どのように社会に貢献できるのか、皆さんと一緒に考えたいと思っています。

一般社団法人先端科学共創基盤機構
代表理事
前川 直和

プロフィール：1987年日本生命保険相互会社入社。主計部、国際業務部を経てニューヨーク勤務。日本生命の国際戦略を立案、執行。その後外資系コンサルティング業界において、金融機関の戦略策定、執行を支援。2015年10月にベンチャー企業支援事業、政府政策課題執行支援事業等を行うM&Company株式会社を設立。2021年に、一般社団法人先端科学共創基盤機構を設立し、代表理事に就任。現在に至る。大阪府出身。★本学出身者

15:10-16:40

組織における
ダイバーシティと人財活用

社会・経済のグローバル化やサステナビリティへの対応の必要性を背景に、ダイバーシティの重要性はますます高まっている。当講義では組織におけるダイバーシティマネジメント、即ち構成員の多様な特性と個性の組織内への取込み、活用につき、歴史的発展過程及び現状、課題について解説する。また国内外の先進的事例を交えながらダイバーシティマネジメントの効用を明らかにし、将来像を展望する。

日本政策投資銀行 執行役員(GRIT担当)
兼 経営企画部サステナビリティ経営室長
原田 文代

プロフィール：地域開発プロジェクトや発展途上国等への技術支援、海外企業の対日投資、日本企業の対外インフラ投資等を担当した後、世界銀行グループ国際金融公社にて東アジアのインフラ整備に従事。DBJシンガポール副社長、国際統括部長兼女性起業サポートセンター長、ストラクチャードファイナンス部長等を経て、2021年6月より現職。DBJのサステナビリティ経営の戦略策定と推進を担当。趣味：ウォーキング。

15:10-16:40

社会人としての学びと仕事の心構え、
そして今後求められるグローバル人材像

まずは、損害保険業界で培った、社会人としての学びと仕事の心構えについて簡単に振り返って披露します。そして、保険事業を通じて、世界中のお客様に“あんしん”をお届けしている東京海上グループの海外展開を事例として用いながら、企業がグローバル展開することの戦略的意義や、ビジョン共有の重要性について平易に解説します。また、今後のグローバル人材に求められる素養について具体的にお伝えしていきます。

元 東京海上日動火災保険株式会社
取締役副社長
倉谷 宏樹

プロフィール：1956年1月奈良県出身。1978年3月神戸大学工学部卒業。同年4月東京海上火災保険株式会社入社。2006年7月営業開発部長。2009年6月～営業担当役員(常務、専務)。2016年4月取締役副社長。2017年4月グループ会社取締役社長。2021年4月アイнг株式会社顧問。趣味：音楽鑑賞、スポーツ観戦。モットー：「明るく 元氣良く 張り切って!!」★本学出身者

連続講義を受講した聴講者一人ひとりが、グローバル化をどのように捉え、どのような努力を今後していくべきか、また10年から20年後の将来(社会、自分)はどうなっているか、全員と具体的にディスカッションしていく。このことを通じて、自身のグローバル人材の在り方を再確認して貰いたい。

神戸大学 産官学連携本部 准教授(知的財産部門長)
西原 圭志

プロフィール：工学博士取得後、九州大学 先端科学技術共同研究センター 助手、長崎大学 知的財産本部 准教授(知的財産部長)等を経て、2007年から現職。学生時代はハンドボール部。趣味は、読書、映画鑑賞、山歩き、各地の美術館・博物館・動物園巡り。本籍地は福岡市。

社会基礎学 推薦文

過去の受講生より

国際人間科学部 1 回生

01

この講義を受けて良かったと思う点は、様々な分野でご活躍されている講師の方のお話を聞く中で、自分の考え方の幅を広げることができた点です。それぞれの分野に関する新たな知識を得られるだけでなく、沢山の経験を積まれている講師の方のお話は自分の将来や社会について深く考えるきっかけとなりました。現代はグローバル化が進んでおり、世界とどのように関わるべきかを一人一人が考える必要があります。そのため、グローバルに生きるとはどういうことなのか、自分はどう生きるべきなのかについて、この講義を通して考えることができとても良かったと感じます。

医学部保健学科 1 回生

02

世界で急速にグローバル化が進んでいます。そんな中、グローバル化の最先端を進んでいっしやる講師の方々からお話を聴けるのはとても貴重な機会であり、そこがこの講義の最大の魅力だと思います。なかなかほかの講義では聞くことの出来ない分野のお話が数多くあります。また、12回の講義でそれぞれ他分野の話聞くことができるため、比較をして多角的なものを見方をすることが出来ました。今まさに世界や日本で起っている問題の事をしっかり理解することが出来るのでこれからの医療従事者として、常識として知っておくべきことがこの講義には沢山詰まっています。

農学部 1 回生

03

この授業では、普段関わることの無い色々な分野の第一人者のお話を聞くことができます。私たち学生目線ではなく、今社会で生きている先輩方の目線で、これから求められる人材の姿であったり、考え方があったりを知り、新たな視点を得ることができます。また、これまで生きてきた人生経験や、そこから得られた考えというのは、将来を考える上で大きな材料となりました。自分の専門とは大きく離れた分野のお話でしたが、今社会でおきていることや、必要とされている能力を、現場にいる方々から聞くのは、本当に良い経験になります。専門分野とは離れているからこそ、受けて欲しい講座だと思います。

文学部 1 回生

04

「グローバル化が急速に進んでいると言われるが、実態はどうか知りたい。」「講義ごとに講師の先生方の専門分野が異なるので、多様な角度から話を聞くことができそう。」という2つの理由から、私は社会基礎学の受講を決めました。実際の講義は想像以上に1コマ1コマの内容が濃く、毎時間何らかの新しい学びを得ることができました。金融や経済、軍縮、エネルギー革命など、通常の講義で私が触れる機会がほとんどないテーマもありましたが、これらのものから生まれている恩恵や社会問題は身近なところに隠れていて、自分と深い関係があるのだということを実感する良い経験になりました。また、普段関わることの少ない他学部の学生の意見は、私が今まで考えたこともなかったような切り口のものが多く、とても刺激的でした。自分の教養の幅を広げたい人、将来やりたいことを見つけるために様々な世界を知りたい人はもちろん、少しでも興味を持った人はぜひこの講義を受けることをおすすめします。

経済学部 1 回生

05

社会基礎学は過酷です。コマ数は多いし、むずかしい話も多々あります。その上テストもかなりハードです。しかしながら、社会基礎学が定員オーバーになるほどの人気講義であるのには訳があります。まず何より社会の第一線で活躍する方々のお話を聞くことができる滅多にないチャンスである点です。社会が今どのような課題を抱え、人々はどうのようなアプローチで解決しようとしているのか…現場の声を直に聞くことができます。また、多種多様な業界の方々が集まるのも魅力の一つです。文系・理系を問わず、多様な社会問題を学ぶことはみなさんの今後の進路にも影響を与えうる大きなきっかけとなるでしょう。もし単に教養を身に付けたいだけならこの講義は必ずしも必要ではありません。むしろ何か新しい観点から物事を考えてみたい、自分の考えをその道のプロにぶつけてみたい方にとってぴったりの授業であると思います。新しい知識や考え方を手に入れるのに食欲みなさんに社会基礎学をおすすめします。

経営学部 1 回生

06

私は社会基礎学の授業を通じて、自分自身の視野を広げるきっかけを掴むことができたと感じています。全ての講義のテーマがグローバル化に貫かれながらも、多様な視点からお話頂いたことで、一口にグローバル化と言っても様々な切り口があり、恩恵だけでなく課題もあるのだと学ぶことができました。このことにより私は、物事を多面的に見ることの大切さを実感し、自分が以前まで全く知らなかった分野について自分からより深く学ぶきっかけを得られました。また、質疑応答の際に周りの学生の鋭い指摘や深い洞察に刺激を受けたことや、文系理系関係無く学ぶことの重要性を再確認できたことで、他の授業へのモチベーションを上げることもできました。自分の中で興味のあることがはっきりしていない人には興味を持つきっかけを、特定の物事に既に関心を持っている人には新たな視点を、与えてくれる講座だと思います。

法学部 1 回生

09

この講義の存在を知ったとき、様々な分野で活躍されている方々から話を聞けることで自分の視野を広げられるチャンスなのではないかと思い、履修を決めました。授業を受ける中で、今までの自分にはなかった考え方や価値観を持った方々からのレクチャーは私の心に強く残りました。少し難しいと感じる話もありましたが、普段の生活ではほとんど考えたことのないトピックが取り上げられて新鮮に感じることもありました。個人的なことではありますが、この講義の中で「世界は日本の大ファンです」という言葉に強く感銘を受けたので、自分の目で確かめるべく来年に留学することを考えています。自分の将来の幅を広げられるチャンスがこの講義にはたくさんあります。様々な分野の最前線で活躍されている素晴らしい方々から話を聞ける機会はめったにないことだと思うのでぜひ多くの方に受講していただきたいと思います。

理学部 1 回生

07

私は理系だから社会を知らないを言い訳にしないでこの講義を受講することにしました。講義を受ける際に意識していたのは如何に先生方のお話が自分がこれから学ぶ専門分野と結びつくかということです。結果として驚くべきことに、全てが結びつきました。自身が学ぶことを様々な切り口から見つめることで新たな発見もありましたし、グローバル化と言われ、複雑化している社会とどのように関わっているのかを知ることができたのです。あなたがこれから勉強していくことがどのように社会に寄与するか知りたくはありませんか？この授業は社会の繋がりを考え、知ることができる良いきっかけとなります。理系だからこそ社会の繋がりを意識して欲しい。この講義を通して自身の将来と社会の関わりを考えて見て下さい。

工学部 1 回生

10

私は、面白そうだと思う講義が1つあったのでこの授業を受けることにしました。しかし、実際に様々な講義を受けると今まで興味の無かった分野の話もとても面白くて新たな発見がありました。自分が所属する学部や学科で学ぶことは違う内容で、しかも非常に密度の濃いお話を聞くことができるという機会はなかなか無いと思います。土曜日に大学へ授業を受けに行くことを煩わしく感じてしまうこともありましたが、毎週受け終わった後は自分の世界が広がって少し成長できたような気持ちになりました。講師の方々は各界で活躍してお忙しいようでしたが、分かりやすいパワーポイントを使って、難しい話題も初歩的なところから話してくださいました。また、受講している学生は学ぶことに対する意識をしっかり持った人が多く、質疑応答では時間内に収まらないほど多くの質問が出て、とても刺激的な空間でした。

医学部医学科 1 回生

08

今日、医療の世界においてもグローバル化がますます進んでいく時代になっており、その中で日本は高度な医療技術を有するにも関わらず、その流れに乗り遅れていると言われていています。私が医学部を志望した理由が、日本の医療の国際標準化に貢献したいからであったこともあり、この講義を受講することにしました。講義では、様々な方面で活躍されている講師の方々のお話を聞くことができ、大変良い機会でした。また、講義と一緒に受講した他学部の生徒の意見や学ぶ姿勢も新鮮で、良い影響を受けました。将来何になろうとするにせよ、多角的に物事を捉えられるようになることは重要なので、社会基礎学をおすすめします。

海事科学部 1 回生

11

分野を超えた授業を受けられるのも、海事なら一回生のうちだけだと思ってこの講座を受講しました。それぞれの分野で活躍している方々の方々の話を聞くことはもちろん、授業の後半の時間を利用して、気になったことを直接質問することもでき、その時間でより理解を深めることに繋がったり、他学部生からいい刺激を受けたりすることもできました。

講師の先生のお話は印象に残るものが多く、私はこの講義を通して、グローバル化が進む中で、自分たちがすべきことや進むべき方向を、つかむことができました。ほかの授業では体験できない面白さを、ぜひ味わってほしいです。